

近江における佐々木一族

―六角包圍網の確立―

後鳥羽上皇が鎌倉倒幕の兵をあげた一二二一年の「承久の変」の後、近江の守護には佐々木信綱がなり、その子供の代になると一族は、「大原」「高島」「六角」「京極」の四家に分かれ近江国内にそれぞれ領地が与えられました。惣領家・守護には三男の六角氏が継ぐことになり、残りの三家は、鎌倉幕府の「在京人」（幕府の直轄軍）になります。

このことについて「承久の乱」に佐々木一族が後鳥羽上皇方についたため、本家の守護を分家によって包圍する体制が幕府によって「承久の変」のあと間もなくとられたものと考えられています。

室町時代になると高島一族は引き続き幕府の「奉公衆」外様衆」（幕府の直轄軍）になります。

近江において「守護包圍網」「六角包圍網」ともいえる体制はこのうち中

高島七頭とその城郭

高島一族の嫡流

高島（佐々木越中）氏

高島一族の嫡流・惣領家である高島氏は代々「越中守」に任ぜられたので、「佐々木越中」もしくは「越中」を家号とするようになったといわれています。以後嫡流家の特徴として「四郎」を通称とし、名前には先祖の高信・泰信の「高」もしくは「泰」が一字含まれます。

一方、当時の文書には「高嶋」を称する家が見られます。「高嶋」という名字や外様衆の「佐々木越中」氏より格の低い番衆にされていること、「佐々木越中」氏は嫡流のみに使われることなどから、高島氏は越中氏の庶流とも推測されています。

世を通じて続き、六角家はこの三分の分家「大原」「高島」「京極」を常に意識して近江国を治めていかなければならないことになりました。

近江湖西の雄・高島七頭

近江湖西の地・高島郡は嘉禎元年（一二三五）に佐々木（高島）高信が田中郷の地頭となり、その一族である高島（越中）、平井、朽木、永田、横山、田中、山崎（愛智氏系）の家々が鎌倉時代から戦国時代末にかけて割拠しました。この一族は、「高島七頭」「西佐々木七人」「西佐々木同名中」「高島河上六代官」とよばれました。一族は安曇川・鴨川によって形成された豊かな平野（生産基盤）の掌握だけでなく、北近江にあった十二力関を掌握し、その関銭（通行税）が収入源になっていました。現在、高島郡内には平井、朽木、永田、横山、田中など村の名称とともに高島七頭の城郭が受け継がれています。

高島越中家が近江守護に

この越中氏から一度だけ近江守護が輩出されたことがあります。

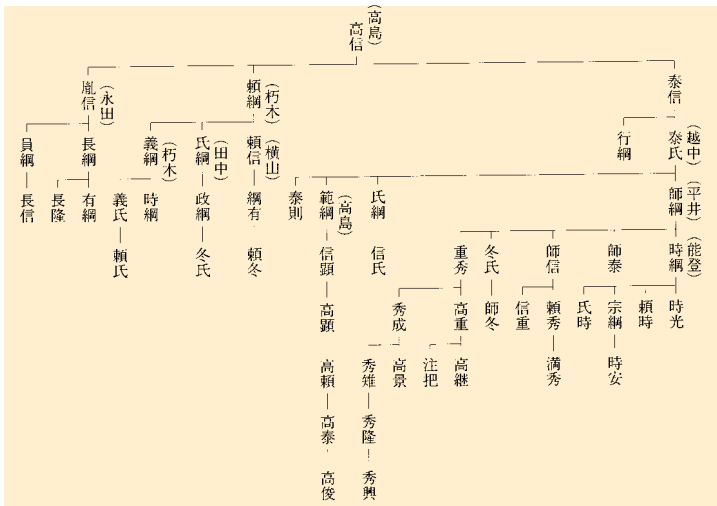
「六角征伐」とよばれる明応元年（一四九二）六角高頼征伐のため近江に出陣していた將軍足利義材が六角氏の兵を伊勢に追いやり、近江を平定した直後「六角四郎政高猶子高嶋越中守息（七頭内）虎千代」が近江の守護に任ぜられました。（『大乘院寺社雜事記』）

このことから高島一族の「家格」の高さや高島一族の中でも越中氏がひときわ秀でた地位にあったことがうかがえます。

高島七頭の軍事力

高島七頭の軍事力を想像する資料として、天文十五年（一五四六）の足利義輝の元服・將軍宣下時の御供として、越中氏は弓一二〇張・太刀帯一〇〇人・馬上の主従三騎・鎗二〇〇本で人数は一〇〇〇余人を引き連れたのに対し、

西佐々木氏略系図



田中氏は弓一八〇張・太刀帯六〇人・馬上の主従二騎・鎗一五〇本で人数は六〇〇余人を出しています。状況は異なりますが、朽木氏は天文二十一年に義輝が近江坂本から入洛した際に御供衆として二〇〇余人で従っています。

このことから越中氏は西佐々木氏の嫡流にふさわしい多くの軍勢を動かせる存在であり、一〇〇〇人も軍勢を動員できる支配能力をもっていたことがうかがえます。

高島（佐々木）越中氏と清水山城

『近江輿地志略』には平井村にある古城址として「清水山にあり佐々木越中守の居城址なりといふ」と記されています。また、地元の平井区が所有している江戸時代の文書や明治初期の絵図等によると清水山城が位置する饗庭野台地の東南部一帯が「清水山」と呼ばれていたことが判明しました。

史跡・清水山城館跡

史跡 清水山城館跡は、饗庭野台地の南東部に位置しています。

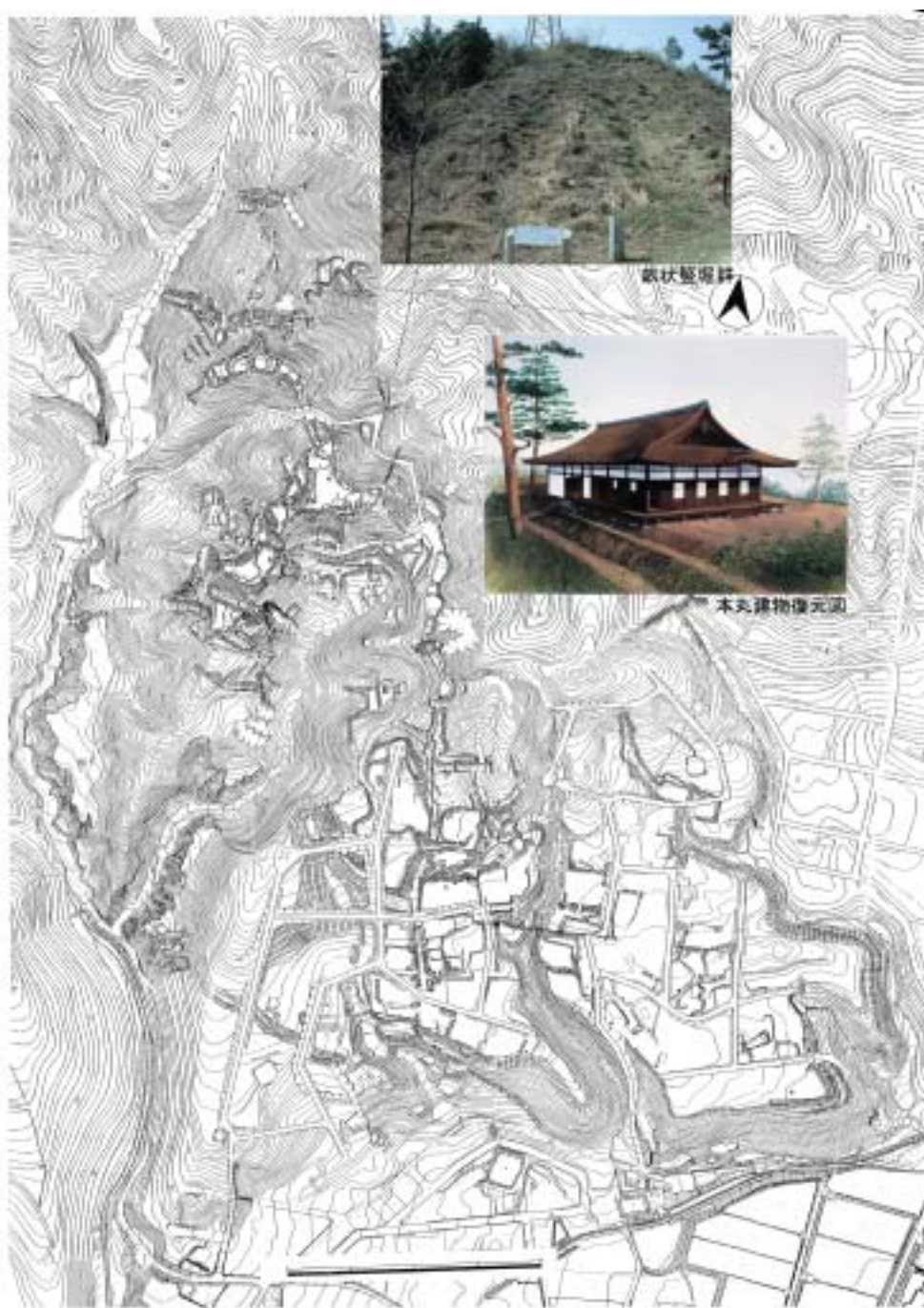
標高二〇〇mの山頂から山麓にかけて山城や屋敷跡が残っています。また城下の段丘上には犬馬場・御屋敷などの地名が残り、近年まで土塁や堀を確認することができた地域が広がっています。これらすべてを含めると1km四方もの広大な範囲になります。

清水山城遺跡

山城は、標高約二一〇mの主郭を中心として北西・南西・南東の三方の尾根上に曲輪を配置した放射状連郭式の山城です。主郭からは高島一族が支配した高島郡中南部一帯、琵琶湖、対岸まで一望することができます。

全体的な遺構の特徴として湾曲した低い土塁が銃列を敷くように配置されています。

また、畝状空堀群が主郭の南面と北西尾根の二箇所には設けられています。



清水山城遺跡・清水山家臣屋敷跡遺構図

畝状空堀群は近江ではあまり流行しない遺構です。永祿年間以降に高島

郡に影響力を強める朝倉氏や浅井氏によって伝播された可能性が指摘されています。

主郭（中心地）の発掘調査

主郭を発掘調査した結果、常御殿と想定される礎石建物跡が見つかりました。出土した遺物は十六世紀第二〜三、四半期に集中していて、下限は織田信長の高島郡攻略の時期とほぼ一致します。



主郭礎石建物跡

清水山遺跡（家臣屋敷跡）

山城の南方に広がる山腹一帯には、「西屋敷」「東屋敷」の地名とともに土塁や道によって方形に区画された屋敷跡が残っています。一区画ごとに井戸が認められ、一つの生活単位を示しています。「西屋敷」の中央には南北に最大幅約10mの道（大手道）が縦断していて、「オウテ」「ダイモン」の地名も残っています。天台寺院「清水寺」の寺坊跡を屋敷に転用したと推測されています。



屋敷地礎石建物跡

本堂谷遺跡（井ノ口館）

本堂谷遺跡は、清水山城遺跡や清水山遺跡とは西ノ谷川を隔てた標高一三〇mの段丘上に位置しています。遺跡の西側は佐々木氏の氏神を祀る大荒比古神社に隣接します。地名等からこの周辺にかつて「大法寺」と呼ばれる寺院があったと推測されています。

遺構は、東西約二七〇m×南北一八〇mの間に残っています。特に饗庭野台地方面を二重の堀と土塁によって嚴重に防御していて、その東側には堀と土塁によって区画された二十以上の曲輪がみられます。清水山家臣屋敷跡と同様にそれぞれの曲輪には井戸が認められることから一つの生活単位を示しています。この区画内には「ジヨログチ」「エンシヨグラ」の地名が残っています。また遺跡の南側一帯においても、近年まで土塁や堀が残っていました。この範囲には「御屋敷」「ハコヤマ」の地名が残っています。屋敷跡がさらに南方に続くと思われまます。

犬馬場と御屋敷

犬馬場遺跡は清水山城・清水山遺跡と同じ丘陵南面の標高約一一〇mの段丘の縁辺部に位置しています。

明治六年『安養寺村地券取調総絵図』には犬追物の行事をした場と考えられる「犬馬場」の地名とともに、約一町四方で周囲に帯状の地割をもつ方形区画が認められます。

この絵図には「犬馬場」の西側に「御屋敷」の地名もみられ清水山城主の館があった場所と推定されています。現在も「犬馬場」「御屋敷」が位置する段丘面には現在も堀や土塁が残っているほか、発掘調査等によってかつて存在していた土塁や堀の位置を復元することが可能な地域です。

大荒比古神社

本神社は佐々木の氏神である少名彦命、仁徳天皇、宇多天皇、敦実親王が祀られています。佐々木高信がこの四神を勧請したと伝えられています。



本堂谷遺跡遺構図

七川祭

現在、五月四日におこなわれる大荒比古神社の例祭「七川祭」では「流鏝馬」「奴振」が奉納されます。

この祭は、佐々木氏が出陣の際に祈願し、戦勝の際に十二頭の流鏝馬と十二基の的を献納したのが始まりとされています。

また「神御供の式」では、佐々木氏おかかえの鍛冶とされる「岡田一党」が正座します。

現在、「奴振」が滋賀県選択無形民俗文化財になっています。



奴振

竹馬祭

清水山城の城下の集落である今市区と辻沢区でそれぞれ五月三・五日に行われます。

辻沢区の竹馬祭は仁徳天皇を祭神とする若宮八幡社の例祭であり、今市区の竹馬祭は少名彦命を祭神とする佐々木神社の例祭です。

子どもが竹馬にまたがり「流鏝馬」などを披露します。

佐々木高信が鑑賞したという伝承も残っています。



竹馬祭

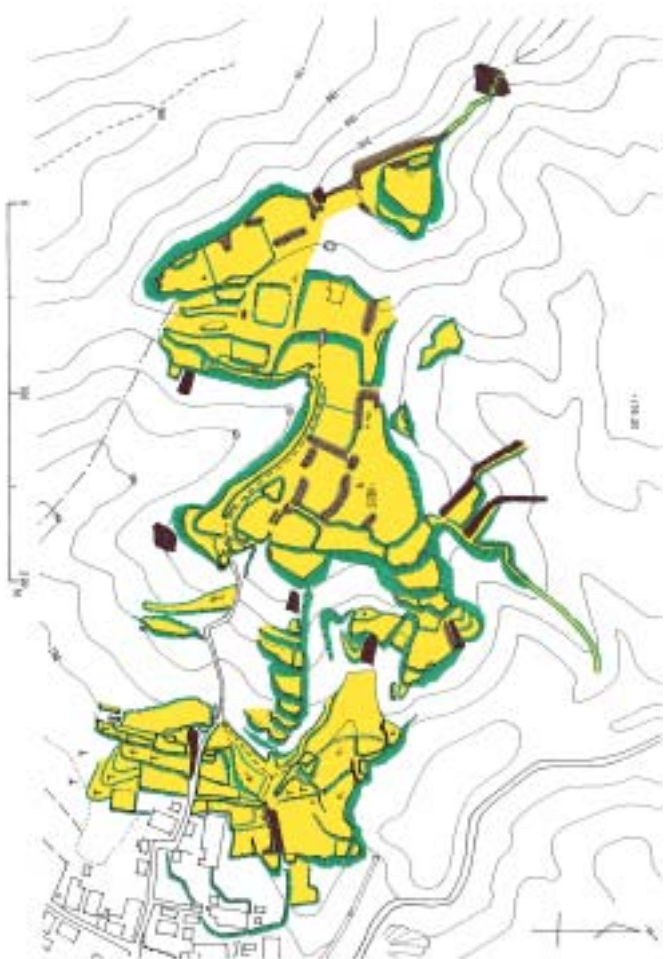
田中城跡(上の城)

高島七頭の田中氏の居城と推定される田中城は、泰山寺野台地に位置しています。標高約二二一mの主郭からは安曇川や鴨川によって形成された平野や琵琶湖を一望することができます。

『近江輿地志略』には「この城上の城と号し、南市村城を下の城と称す」と記されています。上寺城とも呼ばれています。またこの城は『信長公記』にみえる「田中の城」と考えられています。三度名を見ることができません。

一度目は元亀元年(一五七〇)四月「信長、朝倉攻めのため、高島の内田中が城に泊まる。」

二度目は元亀三年(一五七二)三月「信長、和邇に出陣し、浅井・朝倉軍を木戸・田中の城へ追い込む」三度目は元亀四年(一五七三)七月「信長、大船にて高島郡を攻撃。陸からも木戸・田中両城を攻める」とあります。



田中城縄張り図

山城から東方に広がる山腹一帯には、天台寺院「松蓋寺」の寺坊の遺構を利用した屋敷跡が広がっています。

下の城 (田中氏館跡)

田中氏の館跡と推定される下の城は下ノ城の集落一帯に存在していたと推測され「北堀」「南堀」「堀ノ内」などの地名が残っています。

五番領城跡

高島七頭の山崎氏の居城と推定されています。五番領集落内の「天満宮」「信広寺」周辺が城跡と考えられています。

船木城跡

高島七頭の佐々木能登氏の居城と推定される船木城は、北船木の願船寺一帯が城跡と推測されています。

北船木の集落内には、佐々木能登守が社殿を造営・寄進したと伝えられる「若

宮神社」「諏訪神社」が存在します。



願船寺



若宮神社本殿

横山城跡と武曾城跡

横山城跡と武曾城跡は、高島七頭の横山氏の居城と推定されていて、武曾横山の集落に城があったと伝えられています。

横山城の推定地には「上・下的場」「御馬場」の地名、「御新造」内には、「丸ノ内」の孫字が残っています。武曾城は日吉神社一帯と推定されていて、「中殿」「中殿前」「大門」の地名が残っています。

永田城跡

高島七頭の永田氏の居城と伝えられる永田城は、上永田の集落内に存在していたと伝えられています。

集落内には「てらかやぶ」と呼ばれる竹藪で囲まれた一画があり、どるい土塁が残っています。「堀の内」の地名も残っています。